

台湾における特色あるスタートアップの発展状況

概要

- I. 概観
- II. オーディオ・スタートアップ: Sounds Great (聖德斯貴股份有限公司)
- III. SaaS スタートアップ: iCHEF (資廚管理顧問股份有限公司)
- IV. 光学検出 スタートアップ: FlowVIEW Tek (邑流微測股份有限公司)
- V. ビッグデータ・スタートアップ: Vpon Big Data Group (威朋大數據股份有限公司)
- VI. 結論

I. 概観

COVID-19 の影響により、世界のベンチャーキャピタル投資のペースが鈍化している。2020 年第 3 四半期の資金調達報告書によると、米国の 2020 年の第 3 四半期の資金調達件数は 1,461 件で、2019 年の第 3 四半期の 1,647 件と比較では 11% の減少となっている。

台湾の經濟部中小企業処傘下のアーリーステージ資金調達プラットフォームの FINDIT の統計によれば、台湾においても 2020 年上半期のベンチャーキャピタル投資が、件数および金額ともに減少していることがわかる。資金調達件数をみると、2019 年の資金調達件数は 342 件だが、2020 年は 7 月時点では 93 件にとどまっている。

今回の COVID-19 の流行が、スタートアップの事業運営に影響を及ぼし、資金調達は難しくなっている。例えば、海外事業の管理がより困難になったり、国境封鎖により国境を越えたデューデリジェンスの実施が困難になっている。

医療分野での卓越した業績と企業変革の支援

スタートアップに関する大手調査会社 CB Insights によると、2020 年第 4 四半期の世界全体のヘルスケア投資額は 195 億 7,900 万米ドルに達すると予測されている。過去の記録を更新した 2020 年第 2 四半期と第 3 四半期のヘルスケア投資と比較すると、2020 年第 4 四半期の全世界のヘルスケアにおける資金調達の成約実績

は(2020 年第 4 四半期の予測データは 11/17/20 時点での通期予測値ベース)わずかに減少すると予測されている。これらの成約案件のほとんどは米国企業と中国企業で占められており、この四半期は米国企業が 16 件、中国企業が 11 件を獲得している。これまでの最大の案件は、中国に拠点を置くバイオテクノロジー企業 LianBio(聯拓生物)の 3 億 1,000 万米ドルのプライベート・エクイティ・ファイナンスである。

一方、台湾のスタートアップの中には、脊椎の低侵襲外科手術ロボットを開発する Point Robotics MedTech(炳碩生醫)、医療画像ソリューションの aetherAI(雲象科技)、AI マイクロ聴診器を開発する Heroic-Faith(聿信醫療)、脳出血解析製品を開発する Deep01(愛因斯坦人工智慧)など、資金調達面で朗報をもたらした企業もある。資金調達額も 400 万米ドルを超えており、COVID-19 パンデミック時の資金調達市場に明るい兆しが見えてきた。

その他の台湾のスタートアップのなかにも、COVID-19 パンデミックの間に良好な成果を挙げている例が多く見られる。これらのスタートアップは、既存企業の業態変革を支援する役割を果たしてきた。2020 年 8 月から 10 月にかけて資金調達を受けた IKala(愛卡拉)、iCHEF(資廚)、KKday(酷遊天)、KooData(酷訊搜索)の 4 社は、商圏は異なるものの、様々な業界の企業のデジタル変革(DX)を支援するという点では共通している。

II. オーディオ・スタートアップ: Sounds Great (聖德斯貴股份有限公司)

Sounds Great(聖德斯貴)は、台湾の部品ベースのオーディオ IC 設計会社で、IC 設計の対象を物理的な部品レベルの設計に移し、音響スピーカーの関連製品に応用している。半導体製造工程ではマイクロコイル電磁石を製造しており、非常に小さな体積で強い磁場を提供している。マイクロコイル電磁石は、スピーカー製品の磁石構造とコイル構造に取って代わることができ、スピーカー製品を小型化する目的を達成することができる。この新製品は、携帯電話やイヤホン、さらには非常に高い音響特性を必要とする補聴器やその他のウェアラブル製品などへの応用が期待できる。

Sounds Great(聖德斯貴)は、価値創造と事業開発の期間中に、台湾を代表するアクセラレータープログラムである Taiwan Accelerator Plus (TAcc+) から、新しいビジネスモデルの開発手法や産業界との有為な接触機に関して支援を受けた。TAcc+ の新しいビジネスモデルの開発手法は、カスタマーデベロップメントエッジ(CED)と呼ばれるもので、CED のプロセスは、顧客の視点から市場や製品の需要を把握し、スタートアップのコアバリューを獲得することができる。

Sounds Great(聖德斯貴)は、製品特性においては補聴器分野で大きな優位性を持っているが、TAcc+のアクセラレータープログラムを通じて、カスタマーデベロップメントエッジ(CED)、市場専門家によるコンサルティング、市場の調査研究に関する指導を受けた後、まずは 3C(コンピューター・通信・家電製品)市場に焦点を絞ることにした。補聴器市場における医療認証、ニッチ性、環境側面と比較して、3C 市場はより大きい、より優れた、より速い急成長が見込まれる市場である。その上、TAcc+の紹

介を受けた後、Sounds Great (聖德斯貴) は、主要な製造会社の製造技術を活用して製品を検証する機会を得た。

当初、Sounds Great (聖德斯貴) にはビジネスモデルとして、基幹部品の供給 (自社開発製品)、IP 承認 (製品開発や統合のための顧客への技術ライセンス供与)、自社工場全体での生産活動 (製造ノウハウを習得した上で自社で生産ラインを構築) の 3 種類のオプションがあった。今では、同社のビジネスモデルは基幹部品の供給と IP 承認の二つだけである。これらのビジネスモデルは、短期、中期、長期の三段階の製品開発プロセス・プログラムと資金調達計画に適合する可能性があるためである。

TAcc+ の指導を受けた後、Sounds Great (聖德斯貴) は 2020 年にエンジェルラウンドでの資金調達で 5,700 万台湾元 (200 万米ドル) を獲得し、台湾科技部が主導する「From Ip to IPO Program (FITI) (創新創業激励計画) の主要なビジネス・コンペにおいて傑出した存在となった。2020 年 7 月には、同社は Startup Terrace Global Hack 2020 (2020 年度国際創業家大賞) の最終選考に残り、1 ヶ月間の国際起業家研修を受けた。

III. SaaS スタートアップ: iCHEF (資廚管理顧問股份有限公司)

iCHEF (資廚) の共同創業者である程開佑氏は、「台湾には 14 万軒の飲食店があり、年間の市場価値は 8,000 億台湾元を超えている。それにもかかわらず、完全な業界分析レポートは存在しない。多くの飲食店の経営手法は 20 年前と大差ないのが実情である。」と述べている。同氏は、特に中小規模の飲食店舗を中心とした飲食業のデジタル変革 (DX) の後進性には驚嘆しているという。

iCHEF (資廚) は、中小飲食店向けに特化したサービスを提供するソフトウェア会社として 9 年前に誕生した。7,000 店舗の飲食店を支援してきた同社の成功の秘訣は、SaaS 管理を活用した業務の効率化にある。

iCHEF (資廚) の目標は、中小飲食店を技術面で支援することである。同社は、飲食店側の販売時点情報管理 (Point of sale: POS) に対する需要に着目している。POS は、小売業、飲食業、ホテル等の宿泊業などで広く使われている電子情報システムで、その主な機能は、商品の売上、在庫、顧客の購買行動などを集計することである。iCHEF (資廚) のサービスは、SaaS システムの支援サービスに加えて、飲食業の起業家向けの無料講座や交流会なども実施しており、中小飲食店に大企業レベルの技術支援や顧客の事業成長に必要なリソースの提供をしている。

iCHEF (資廚) は 2016 年、AppWorks が主導する 560 万米ドルの A ラウンドの資金調達を完了したことを発表した。2017 年に同社の収益は 1 億台湾元を超え、2018 年にはキャッシュフロー分岐点をクリアし、徐々に黒字に転じ、2019 年の収益は約 2 億米ドルとなった。2020 年上半期の時点で、利益とキャッシュフローは毎月過去最高を更新している。海外市場 (シンガポール、香港、マレーシア) を含めた利用顧客数も 8,000 社を超えるまでに成長した。

2020年になってからも、iCHEF(資廚)は、Uber EatsやFacebook、LINEなどの海外プラットフォームとのシリアル接続など、新機能を追加している。2020年9月、同社はJAFCO Asia主導のファンドにより総額500万米ドルの新規資金調達を完了したことを発表した。資金調達の目的は、台湾市場での事業運営の強化、商品開発やカスタマーエクスペリエンスの向上、食品・飲料エコシステムの成長エネルギーの拡大を継続することにある。長期的には新規株式公開(IPO)申請を目指している。

IV. 光学検出スタートアップ：FlowVIEW Tek (邑流微測股份有限公司)

FlowVIEW Tek(邑流微測)は、2017年に工業技術研究院から派生したスタートアップである。正確で高速の液体サンプル検出の研究開発に重点を置いている。同社は、AI流体検出技術を保護するために多国籍特許を取得している。同社はその技術サービスを半導体やエネルギー電池の分野に導入することに成功している。

半導体の液体サンプル検出のコアバリューは、Flow AOIと呼ばれている。AI画像認識技術は、ハードウェア、ソフトウェア、画像解析サービスを統合するものである。ソフトウェアで画像化した後、高機能の先端製造プロセスでは、30秒で小さな粒子が出現する。粒子とその大きさや形状がはっきり見えるだけでなく、その分布や組成も明確に解析できる。

半導体製造プロセスの高度化に伴い、ナノ粒子の検出市場規模は2025年までに1,000億米ドルを超えると推定されている。現在のFlowVIEW Tek(邑流微測)のFlow AOIソリューションでは、1ナノメートルから1ミクロンの範囲を測定することができ、歩留率も2%から5%の範囲に向上している。

FlowVIEW Tek(邑流微測)の開発プロセスでは、TAcc+の協力を得て、多くの潜在的な市場の選択肢の中から、半導体とエネルギー電池市場に焦点を絞ることができた。TAcc+からの紹介を通じて、FlowVIEW Tek(邑流微測)は多くの業界専門家や起業指導者と知己を得ることができた。2020年、同社は国家開発基金(行政院国家開発基金管理会)と日本の住友商事から約2,800万台湾元(約100万米ドル)のシード(プレA)ラウンドの出資を受けた。

V. ビッグデータ・スタートアップ：Vpon Big Data Group (威朋大數據股份有限公司)

Vpon(威朋)は設立当初、デジタルマーケティングを事業の方向性として位置付けていた。継続的な実験と変革を経て、近年は重点事業分野をデータ分析サービスへと移行し、過去数年間に蓄積されたモバイルデバイス利用者の行動データベースを活用して、企業に総合的なビッグデータ技術サービスとマーケティングソリューションを提供している。

Vpon(威朋)が急速にスケールアップしたのは、同社が単一のデータ分析プロジェクトに特化するのではなく、多くのデータソースとツールを収集したデータ分析プラットフォームを顧客に提供し、顧客のニーズに応じて独自のデータ分析アプリケーションフォームを計画できるからである。

Vpon(威朋)の事業は過去 12 年間でアジア太平洋地域の 7 都市に広がり、現地企業や様々な業界の多国籍グループなど 1,500 社以上の顧客を抱えている。同社は 2020 年に C ラウンドで 4,000 万米ドルの資金調達を受けたと発表している。同社の投資家には、日本のクールジャパン機構、韓国の STIC Investments 社、日本と韓国の政府系投資組織、日本の Beenos 社、香港の旅行に関するテクノロジー投資ファンドである TripLabs 社が含まれる。

Vpon(威朋)は今回の資金調達により、アジア太平洋地域での事業拡大と研究開発に投資する方針である。同社は、台湾を将来のグローバルデータハブとして位置づけるとともに、アジアのデータ市場を開拓し、グローバルデータリーダーを目指している。

VI. 結論

デジタルタイムズの 2020 年度起業家調査によると、台湾では感染症拡大防止策が成功しているにもかかわらず、台湾のスタートアップの 36.2%は資金調達の際の投資家との交渉が一層厳しくなっていると回答している。

ICT 産業の台頭以来、デジタル変革(DX)はもはや新しい問題ではない。COVID-19 流行の影響下で、デジタル変革(DX)に対する企業のニーズと緊急性が高まっている。また、関連するスタートアップはベンチャーキャピタルの新たな寵児となっている。

他国に比べて、台湾は感染症拡大防止に成功しているため、商習慣や日常生活が感染症流行の影響を受けていない。そのため、感染症流行の影響を受けてビジネスモデルの開発や検証ができないスタートアップにとっては、台湾の市場やイノベーションリソース、環境を活用してビジネスの検証や持続的な発展を図ることができる可能性がある。

参考資料

<英語> ヘルスケア業界の 2020 年第 4 四半期の状況プレビュー:2020 年に注目すべき投資動向 制作:CB Insights 社

(<https://app.cbinsights.com/research/report/healthcare-trends-q4-2020/>)

<中国語>

2020 創業大調查-疫情使創投放緩、金流急凍！台灣新創如何突破市場瓶頸？

(數位時代 , Nov. 13, 2020)

<https://meet.bnext.com.tw/articles/view/47075>)

創業投資動向觀測系列-2020 年第三季美國創投市場趨勢解析(FINDIT , Oct. 28, 2020)

<https://findit.org.tw/researchPageV2.aspx?pagelD=1563>)

中小餐廳的救星！靠一台 iPad , iCHEF 如何橫跨台港星助攻 7000 家餐廳？(天下 , Mar. 10, 2020)

<https://www.cw.com.tw/article/5099313?template=transformers>)

工研院新創公司傳捷報 呂流微測首獲日商注資(經濟日報 , Aug. 26, 2020)

<https://money.udn.com/money/story/11799/4811962>)

獲 12 億元 C 輪融資！Vpon 如何打造日港韓爭搶的數據技術？(數位時代 , Sep. 9, 2020)

<https://www.bnext.com.tw/article/59178/vpon-c-round>)